

テーマ 2025 祇園祭

主な花材



ヒオウギ

(徳島県産)

名前の由来は、扇を開いたような葉の姿から付けられました。災厄除去が起源とされている京都の夏の風物詩・祇園祭では、祭りの期間中、魔除けとして床の間や軒先にヒオウギを飾る習慣があります。

花言葉：誠意、個性美



アセビ

(奈良県産)

名前の由来は、馬が食べると酔ったように足がふらつくことから付けられたといわれています。2月から4月に、白や赤の小さな花をたくさんつけます。

花言葉：純真な心、献身



黒ひえ

(福岡県産)

畑や水田で栽培でき、果実が穂に多数つきます。ヒエの語源には、寒冷地でも育つ穀類であることから、「冷え」が転じたものという説があります。

花言葉：おおらかな心

